



# 川の国応援団通信



## 黒目川 de 大発見 !! 川の魅力実感 in 朝霞を開催



平成26年9月15日(月・祝)、朝霞市において「黒目川 de 大発見!!」川の魅力実感 in 朝霞を開催しました。

例年、子供たちや沿川の住民の皆さんに川遊びなどを通じて川に親しんでもらう「川の魅力実感イベント」を実施していましたが(平成24、25年度は荒天のため中止)、今回は初めて、川の国応援団美化活動団体への感謝状の贈呈や地元団体の活動事例発表などを併せて行いました。

会場となった黒目川は、東京都の小平霊園に端を発し、小平市、新座市、朝霞市へと流れ、朝霞市内で新河岸川と合流しています。都心から約20キロと近く、都市部を流れる川にもかかわらず、県内でも有数の良好な水質を有しています。

屋内の部は、主催者である上田知事、富岡朝霞市長、さらに御来賓に神奈川県議、醍醐県議、利根川朝霞市議会議長をお招きして、朝霞市産業文化センター多目的ホールで行いました。

司会を務めていただいたのは、埼玉県立朝霞西高等学校音楽部の永所さんと菊池さんのお二人。はきはきとした見事な司会ぶりに会場の雰囲気も明るくなりましました。

まず、「黒目川今昔物語」として、湧水に恵まれている黒目川の特徴や劇的に改善した水質などを紹介。その際、黒目川で活動して



ステージでの記念撮影

いる団体の方が撮影された大変貴重なアユの産卵の動画も上映されました。

川の国応援団美化活動団体への感謝状贈呈では、日ごろ河川の清掃活動に取り組みられている18団体の皆様に登壇いただき、代表として「久喜市青毛堀稲荷台(とうかだい)用水環境保全会」の大塚様に上田知事から感謝状をお渡ししました。

地元の団体を代表した事例発表は、「黒目川に親しむ会」の藤井さんにお願いしました。河川改修から環境学習までハード・ソフトにわたる幅広い活動内容が印象的な発表でした。

一方、屋内では、カヌーや投網の体験などの川遊びのイベントが行われました。

「水質検査」のブースでは、子供たちにパックテストを使って「自分で汲んだ黒目川の水」と「その水にスポーツドリンクを少量まぜた物」の2つを比較してもらいました。「川の国アドバイザー」の小原さん、篠原さん、長澤さん、茂木さんに御協力いただき、多くの皆さんに参加いただくことができました。体験した皆さんからは黒目川の水がきれいなことや、ほんの少しのドリンドクで川が汚れてしまうことに驚きの声があがっていました。

地元B級グルメなどの出店もあり、屋内、屋外あわせて延べ五千人もの方に参加いただきました。御協力、御参加いただきました皆様にこの場をお借りし御礼申し上げます。ありがとうございました。



水質検査のブース



事例発表(黒目川に親しむ会)

# 会員のひろば



## 活動報告

～565団体が県内各地で活動中！～

今回は、「川ガキ体験イベント」を開催した2団体からと、お魚調査を実施した保育園からの報告です。

### 「第11回東川・川まつり」

「ミズガキあつまれ」  
【東川を愛する会 手島弘】

『第11回東川・川まつりミズガキあつまれ』のイベントを7月21日(月)の海の日の祭日に、所沢市立東中学校前の川端橋付近の前後100mの東川を利用して開催しました。

当日は、川越県土整備事務所飯塚所長をはじめ河川担当・管理担当の方々、所沢市では藤本市長をはじめ環境クリーン部長以下環境対策課の方々、国会議員・県会議員・市議会議員の方々も参加して頂き、東中学校の生徒や牛沼小学校の児童などたくさんの子供たちと一緒に、ゴミ拾いからはじまりました。

水質調査は、水温・気温・COD・PH・EC・NO2-N・NH4-Nと少し専門

的な内容で調査しました。

ミズガキ講座として、川の中に入り、魚を取るためのタモ網の使い方をスタッフが実演をしてから全員でミズガキになって魚を追いかけてみました。中には、川で泳いでしまう子供たちもいてもう大変でした。川岸に水槽を並べて捕った魚を分類し、口ひげがある魚とか、丸みなどの違いや、それぞれの魚の特徴を参加者に質問をしながら説明をしました。今年は、ヨシノボリが久しぶりに獲れました。

最後に、所

沢市カヌー協会のご協力により子供達がカヌーに乗りましました。毎年行っているので去年参加した子供たちは、初めての子供と違って少しは上手に見えました。



今年も天候に恵まれ楽しい時間があったという間に過ぎてしまいました。長年開催をしており、飯塚所長からも『久しぶり』と声をかけて頂きました。地域と行政が身近になっていると感じ、地域で川の

状態などを気軽に連絡が出来ることが大変良い事だと思えました。これからもこのイベントを地域の交流の場として、また、川の国応援団として開催をしていきたいと考えています。

### 「第9回柳瀬川であそぼう」

【NPO法人エコシティ志木 青木 明雄】

例年は、川の生き物を観察することを中心に行っていたイベントを、今年は、遊びに重きを置いた企画として、7月27日(日)に行いました。河川敷での「ゴミ拾い」から始めて、「魚とり」、「笹舟を作って流す」、「川を渡って戻る」、そして最後に「捕った魚の観察」を行いました。

志木中学校前の河川敷は、長年堆積した土砂を取り除いた為、70〜80cm程低くなりました。例年だと草茫々の河川敷はすっきりしていて、ゴミ拾いも楽でした。

今回初めての笹舟作りは、簡単です。子供たちにも楽しんでもらえたようです。作った笹舟を川に浮かべてゆっくり流れて行くのを、もっと早くとばかりに川の水をかけている子供たちが多く、ビショビショになっていました。

川の一部は、かなり深く、流れも速く、大人でも真横にわたること

が難しいところがあります。浅いところを探りながら、上流に向かって斜めに横切っていく事にしました。昨年は、中州がありました。すがすがしくなっています。

この中州があったあたりを斜めに上流に向かって抜けると、対岸までは、あと僅かです。最後は、少し深くなりますが、子供たちは腰まで浸かり、対岸にタッチすることができました。戻りは、しゃがんで水に浸かったりして楽しむ子供達も多く、川遊びらしいイベントになりました。



最後は、みんなで捕った魚を水槽に入れて、観察しました。帰る姿に、楽しんでくれた様子が見え、良かったです。

### 「黒目川でお魚調査」

【青義保育園(さいたま市桜区)】

平成25年11月に県が整備した「鴻沼川ポケットパーク」の植栽の手伝いをきっかけに川の国応援団美化活動団体に登録、鴻沼川沿い

の遊歩道とポケットパークの清掃活動をを行っています。その時植えたチューリップは、水やりのかいもあり、この春見事に開花。

せつかくの川との関わりなので、次は川に入って遊びたい。園から近くて、お魚もたくさん(笑)そんな川ありませんかと水辺再生課の方に相談。あるんですね。

場所はJR北朝霞駅近くあの黒目川。8月22日の天気は快晴。

まずは講師の方が投網を一投。アユやオイカワ、ヌマチチブなど次々に捕れるお魚たちに子供たちも大興奮。はやる気持ちを抑えながらタモ網の使い方を真剣な眼差しで☆。

いざ出陣。

「ガサガサ」というお魚の捕り方で網を差し込み、足で一生懸命ガサガサガサガサ。なかなかうまくいきません。講師の方のお手伝いもあり、ヌマチチブやマハゼなどをゲット！

「こんなにいい環境が都市部にもあるんですね。来年もまたお願いします。」



## 特集

### 川の国アドバイザー 制度の紹介



今回は、環境学習を実施した川の国アドバイザーの一人と、川の国アドバイザー制度を利用した1団体の感想を紹介します。

#### 「川の国アドバイザーとして

#### 環境学習を実施」

吉田 俊彦

7月20日(土)に飯能こどもエコクラブさんが主催する入間川(飯能河原)水棲生物水質判定イベントの講師として参加しました。

いわゆるガサガサは、タモ網係と追いこみ係を数人ずつ二手に分担して行った協働作戦で効果を上げました。下流側で待つ網の係は、川底から網が浮かないように注意し、追い立てる側は、水が濁るくらい元氣よく生き物を網に追いこみます。

その結果、魚類では、カジカ、シマドジョウ、ウグイ、オイカワ、その他の生き物では、ヒラタカゲロウ、トビケラ、ヘビトンボ、ヤゴ、そしてアメリカザリガニなどが確認されました。

ただ、環境省の水生生物による4段階の(きれいな水、ややきれいな水、きたない水、とてもきたない水)水質判定に疑問が残りました。

理由は、アメリカザリガニを「とてもきたない水」にすむ指標生物としている点です。アメリカ

は、汚水にも耐えますが、きれいな水にも棲んでいます。実際に、今回同じ場所で採取されたヘビトンボは、きれいな水に棲む代表格です。この判定法は実態にそぐわないものとなっています。



実は、このような事例は、県内では珍しくありません。ザリガニをとった子供たちが、不要にがっかりする顔は見たくありません。何よりも実態に合わせて判定基準を改訂する必要があるのではないのでしょうか。

#### 「川の国アドバイザーの話」を聞く 【鴨川を愛する会】

北村 千代樹

鴨川を愛する会は昭和53年7月、全くのどぶ川で、黒いヘドロから放たれる悪臭で困り果てていた鴨川を「清流を取り戻し、子供たち

に誇れるふるさとの川にしよう」と数人の有志が鴨川沿川の住民に呼びかけて結成したものです。

今では、たくさんの種類の魚たちが泳ぎ、いく種ものカモたちが群れ集い、多くの方から愛される川となりました。沿川の小学校では、総合学習の時間に会員が講師となり、鴨川の授業も行われています。

このような活動を重ねる中で、平成25年に環境大臣賞を受賞しました。これを機会に、改めて活動を振り返り、川の大切さについて考えようと、会結成26周年のつどいを開催しました。

つどいには、50名が参加し、記念講演として川の国アドバイザーである比企の川づくり協議会代表の渡辺 仁氏から、「いく種もの生き物のいる川と、私たちの暮らし」と題した講演と、事前に現地調査をしていたいただいた視点から見た鴨川の改修箇所等の提言があり、大変参考にになりました。活発な質疑もあり、積極的な交流会になりました。



# 川の再生交流会の

お知らせ！

県内全域を対象とした川の再生交流会を開催します。事例発表や、初心者からベテラン向けまで幅広いテーマを設定した7分科会を行います。川の再生活動のレベルアップを図りたい人、活動の輪を広げたい人、どなたも参加大歓迎です。

日時 平成27年2月8日(日)

場所 さいたま市民会館うらわ

(浦和駅徒歩7分)

申込 申込書を手環境課に提出

※申込書を12月上旬頃発送予定です。

ホームページにも申込書を掲載予定です。

内容(案)※今後変更となる可能性もあります。

《10:30～12:00(ホール)》

・開会

・綾瀬川をきれいにする強化月間」に流域

の小学校(15校)で取り組んだ生活排水

対策について

・川の再生活動団体による事例等の発表

《12:00～15:00(各集会室)》

第1分科会 始めの一步

第2分科会 美化活動のすすめ

第3分科会 環境学習 地域と学校

第4分科会 多自然の川づくり

第5分科会 都市排水路の川づくり

第6分科会 100プラン、まるごと等

第7分科会 環境学習

《15:20 各分科会代表者発表(ホール)》

《16:00 閉会》

10月を  
「綾瀬川をきれいにする強化月間」  
として綾瀬川の再生に取り組んでいます

綾瀬川は昭和40年代と比較すると大幅に水質が改善しましたが、近年も、全国一級河川水質ランキングでワースト5に入るなど、さらなる水質改善が求められています。

そこで、平

成25年度か

ら綾瀬川流

域で川の再

生活動を行

う川の国応

援団の皆さ

んや流域市

町に御参加

いただき、「綾瀬川再生流域会議」(事務局:水環境課)を開催しています。

この会議での発表を受け、今年度から「綾瀬川清流ルネッサンス連絡会」(事務局:江戸川河川事務所)と連携し、綾瀬川をきれいにしようという機運を盛り上げるため10月を「綾瀬川をきれいにする強化月間」、10月第4日曜日を「綾瀬川の日」と設定し、支川を含めて清掃活動や生活排水対策等に取り組んでいます。

今後とも、皆様の御協力をお願いいたします。



# 『水環境保全活動特別賞』

「川の国応援団」制度に対して受賞

平成26年6月7日、埼玉県の「川の国応援団」制度に対し、公益社団法人日本水環境学会関東支部から「水環境保全活動特別賞」が贈られました。

日本水環境学会は、水環境に関連する分野の学術的調査や研究、知識の普及、健全な水環境の保全と創造への寄与、学術・文化の発展への貢献を目的に設立された団体です。

「川の国応援団」

制度について、「行

政と市民が連携し

て川の再生に取り

組んでいること」、

「500を超える団

体が活発に活動し

ており、県全体に

川の再生の気運が

広がっていること」が評価され、特別賞の受賞に至ったものです。



発行 埼玉県環境部水環境課

〒330-9301  
さいたま市浦和区高砂3-15-1  
(第3庁舎1階)  
TEL:048-830-3088  
FAX:048-830-4773  
E-mail:a3070-03@pref.saitama.lg.jp

☆活動予定や活動報告などをお寄せください。  
☆資材の提供や貸出し等のご希望があればご相談ください。  
☆連絡先等の変更があればご連絡ください。

川の国応援団のHP  
<http://www.pref.saitama.lg.jp/site/kawanokuniouendan/>

